



感謝のこころ

部長代理 勝木 茂

本年度も残り1か月となりました。着任して一年が経とうとしています。保護者の皆様には、初等部の教育について、いつもご理解とご協力、そして励ましをいただき心より感謝申し上げます。

さて、平昌での冬期オリンピックが終わりました。わたしもいくつかの競技をテレビ中継を通して観戦することができました。手に汗握る熱戦の数々、さすが世界のトップ選手たちは一味違うなと感じました。

競技もさることながらわたしがやはり一流選手は素晴らしいなと感じたことがあります。それは、競技後の選手たちのインタビューでの言葉です。選手たちからは、ほとんどと言ってよいほど、「ここまで来て来たのは、コーチをはじめチームメート、家族や多くの皆様のお蔭です。」「苦しい時もありましたが、支え励ましてくださった皆様がいたからこそ頑張れました。」「本当にありがとうございます。」というように『感謝』の言葉が自然に出てきていました。また、多くの選手の姿からは、謙虚さも伝わってきました。『いつでも感謝のこころを大切にすること』このことが、人を成長させることそのものであることを改めて認識した場面でした。



2月17日(土)に実施いたしました「音楽会」には、たくさんの保護者の皆様にご来場いただき、また、子どもたちへのあたたか

い拍手と励ましをいただき誠にありがとうございました。今年度は、インフルエンザによる閉鎖があった学級もあり、限られた練習時間となりましたが、子どもたちは協力して合唱や合奏に取り組むことができたと感じています。

さて、3月16日(金)はいよいよ卒業式です。卒業式は、小学校学習指導要領によれば、儀式的行事に位置付けられ、その内容は「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと」となっており、指導方針として、「厳粛な雰囲気の中にも、明るい希望に満ちたものとなるようにする。」となっています。また、初等部における「卒業式」の目標は次のようになっています。

- 卒業生一人一人が、卒業の喜びを味わうとともに、中学進学への希望をもち、今までお世話になっ方々への感謝の気持ちと鎌倉女子大学初等部への愛校の念を抱き、将来への心構えがもてるようにする。
- 在校生は、卒業生に感謝の気持ちを持ち、伝統や品位を受け継ぎ、別れを惜しみつつ祝福する気持ちがもてるようにする。
- 式における規律と礼儀の大切さに気付き、気品ある態度がとれるようにする。

卒業式は6年生にとっては、最後の授業でもあります。初等部においては、式当日だけではなく、それに至るまでの過程の中で、上述したねらいが実現できるよう、いわゆる練習(練習も教育課程に位置付く大切な授業です)を何回か積み重ねていきます。

6年生は、すでに、卒業を十分に意識しています。卒業式まで残り半月、素晴らしい卒業式になるよう「感謝のこころ」を大切にしつつ、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。